

瀨額 厚（こうけつ・あつし） 第13章
山口大学理事、日本近現代史専攻。1951年1月生まれ。岐阜県出身。平和憲法ネットワーク・やまぐち共同代表。主な著作は、『近代日本政軍関係の研究』、『文民統制』、『監視社会の未来』、『侵略戦争と総力戦』、『私たちの戦争責任』、『領土問題と歴史認識』など多数。中国、台湾、韓国などの研究者・市民たちと東亜歴史文化学会を設立（2009）し、機関誌『東亜歴史文化研究』を発行している。

鈴木宗男（すずき・むねお） 第14章
新党大地代表。1948年北海道生まれ。1983年第37回衆議院議員総選挙で初当選。その後、国務大臣北海道・沖縄開発庁長官、内閣官房副長官、衆議院議院運営委員長などを歴任。2002年国策捜査により逮捕される。2005年、松山千春氏と地域政党、新党大地を結成する。国政復帰を果たし、衆議院外務委員長に就任。2010年9月、一貫して無罪を主張したが認められず、最高裁にて有罪が確定。2011年末、仮釈放後、国会議員5名を集め、新たな全国政党として新党大地を結成し代表に就任。

川内博史（かわうち・ひろし） 第6章
前衆議院議員。1961年11月生まれ。鹿児島県鹿児島市出身。早稲田大学政治経済学部修了。銀行員、会社役員を経て政界へ。1996年衆議院初当選。以来連続5期当選。その間、衆議院国土交通委員長、文部科学委員長、沖縄北方特別委員長、科学技術特別委員長等を歴任。

前泊博盛（まえどまり・ひろもり） 第7章
沖縄国際大学・大学院教員、軍事経済、沖縄経済専攻。1960年11月生まれ。沖縄県平良市西原(現・宮古島市)出身。琉球新報社論説委員長などを経て2011年から現職。主な著書に「もっと知りたい! 本当の沖縄」、「沖縄と米軍基地」、「入門日米地位協定」など。内閣府沖縄総合事務局事業評価等監視委員会委員、国土交通省社会資本整備審議会専門委員、沖縄県経営者協会観光振興委員会委員長、沖縄県県議会「議会史」編集委員など兼務。

成澤宗男（なるさわ・むねお） 第8章
『週刊金曜日』編集部企画委員。1953年7月生まれ。新潟県出身。中央大学大学院法学研究科（政治学専攻）修士課程修了。主な著作は、単著『ミッテランとロカール』、『オバマの危険』、『9.11の謎』等。共著『9・11の省察』、『米軍再編と前線基地・日本』、『基地を持つ自治体の闘い』等。欧州・米国の軍事外交問題についての論評・論文多数。

西山太吉（にしやま・たきち） 第9章
ジャーナリスト。1931年9月生まれ。下関市出身。毎日新聞社に入社後、経済部、政治部記者として活動。沖縄返還時の密約の「漏洩」にかかわる「西山事件」の当事者。事件後も、法廷の場や著作物などで密約問題を訴えるため、活動を続けている。単著『沖縄密約——「情報犯罪」と日米同盟、『機密を開示せよ——裁かれる沖縄密約』など。

伊波洋一（いは・よういち） 第10章
元宜野湾市長。1952年1月生まれ。沖縄県宜野湾市出身。琉球大学物理学科卒。宜野湾市職員、県議2期を経て2003年から宜野湾市長2期。普天間飛行場の県内移設に反対した。座右の銘は「基地のない平和な沖縄」。著書『普天間基地はあなたの隣にある。だから一緒になくしたい。』共著『対論・普天間基地はなくせる』、『沖縄とヤマト』など。今も米軍基地問題の解決に向けて講演等の活動に取り組む。

井原勝介（いはら・かつすけ） 第11章
元岩国市長。1950年生まれ。山口県玖珂郡錦町出身。東京大学法学部卒業後労働省入省。在タイ日本大使館外交官、大臣秘書官などを経て、1999年に岩国市長に就任。2006年には、米軍再編をめぐる住民投票を実施、反対を貫いたが、2007年12月予算と引き替えに辞職。翌年2月の市長選挙で敗北。同年4月に政治グループ「草の根ネットワーク岩国」(2012年4月、市民政党「草の根」に名称変更)を設立し代表に就任。政治の学び舎「草莽塾」を主宰。著書『岩国に吹いた風』、共著『地域から平和をきざく』。

執筆者紹介

[編者]
孫崎 享（まごさき・うける） 第1章、第12章
1943年生まれ。旧満州国鞍山出身。1966年東京大学法学部中退、外務省入省。英国、ソ連、米国（ハーバード大学国際問題研究所研究員）、イラク、カナダ（公使）勤務を経て、駐ウズベキスタン大使、国際情報局長、駐イラン大使を歴任。2002年より防衛大学校教授。この間公共政策学科長、人文社会学群長を歴任。2009年3月退官。著書に「日本外交——現場からの証言」（第2回山本七平賞受賞）、「日米同盟の正体」、「情報と外交」、「日本の領土問題——尖閣・竹島・北方領土」、「不愉快な現実」、「戦後史の正体」、「検証尖閣問題」、「これから世界はどうなるか」等。

木村 朗（きむら・あきら） 第5章
鹿児島大学教員、平和学専攻。1954年8月生まれ。北九州市小倉出身。現在川内原発差し止め訴訟原告団副団長を兼任。主な著作は、単著『危機の時代の平和学』、共著『広島・長崎への原爆投下再考——日米の視点』、編著『市民を陥れる司法の罠——志布志冤罪事件と裁判員制度をめぐるって』、『九州原発ゼロへ、48の視点～玄海・川内原発の廃炉をめざして』など。平和問題ゼミナールを主催。インターネット新聞NPJに論評「時代の奔流を見据えて」を連載中。

[執筆者]
ガバン・マコーマック（Gavan McCormack） 第2章
オーストラリア国立大学名誉教授、東アジア現代史。英国籍。メルボルン大学卒業後、ロンドン大学博士号取得。リーズ大学ほかで教鞭をとった後、1990年からオーストラリア国立大学太平洋アジア研究学院歴史学科へ。著書に『属国——米国の抱擁とアジアでの孤立』、『北朝鮮をどう考えるのか——冷戦のトラウマを越えて』ほか。
※翻訳者：東江日出郎（名古屋外国語大学非常勤講師、国際開発学博士）

新崎盛暉（あらさき・もりてる） 第3章
沖縄大学名誉教授、沖縄近現代史。1936年1月生まれ。現在沖縄平和市民連絡会代表世話人。主な著作は、『沖縄同時代史（全10巻、別巻1）』、『沖縄現代史 新版』『新崎盛暉が説く構造的沖縄差別』など。雑誌『けーし風』に、「私が生きた沖縄史、そして世界史」を連載中。

前田哲男（まえだ・てつお） 第4章
ジャーナリスト、軍事、核、戦争責任問題。1938年9月生まれ。北九州市戸畑出身。長崎放送記者を経てフリー。「重慶大爆撃の被害者と連帯する会・東京」代表。主な著書、『棄民の群島』、『戦略爆撃の思想』、『自衛隊のジレンマ』、『フクシマと沖縄』など。

[[]
[]]